

柳賛伊さんありがとう！

花房恵美子

悲しいお知らせです。今年（2018年）、2月20日午前11時に関釜裁判の原告で不二越際弁の原告でもある柳賛伊さんが釜山の老人病院で亡くなりました。享年90歳でした。

私たちは毎年訪韓し原告ハルモニたちを訪ねて交流を続けてきましたが、今年はソウルで不二越の原告団と韓国の市民団体と日本側の支援者たちの交流が企画されていた(5月31日)ので、それに合わせて訪韓し、久しぶりに皆さんにお会いできると楽しみにしていました。

釜山に会いに行くとの電話をしても繋がらなくて、賛伊さんの息子さんに電話をして彼女の逝去を知りました。

5月29日釜山の金海空港に福岡から3人で着き、賛伊さんの息子さんにお会いし、お母さんのことをお聞きしました。

昨年の夏頃から歯茎がなくなり、入れ歯が入れられなくなり、噛めない、食べるのが苦しい状態になっていたそうです。毎日おかゆだったので、飽きてきて、飲み物だけで食べないので、目に見えて痩せてきたので、病院側から放置できないので鼻からチューブで栄養を摂るように説得されても、ハルモニは拒否されたそうです。

体力が落ちるに伴って気力も落ちてきたそうですが、最後まで最新のニュースを見ていて、社会問題に興味があったし、自分が死んでもいつかは解決する(強制動員強制労働問題)と確信をもっていたそうです。母として5人の子供に教育を受けさせられなかったので、不二越から補償金を貰えれば多少にかかわらず子供たちに分け与えたい。それが願いだと。

「日本の方には宿、食事、裁判と遠くからも支援してもらった。在日の人も応援してくれた。

1日でも長いのに25年間いろんな支援を頂いて、塚本さん一兵さん、たくさんの人、忘れられない。恩返しができないので申し訳ない。」賛伊さんの最後の言葉を伝えていただきました。

息子さんと3時間以上会話して、賛伊さんが家族の方々にご自分の裁判のことを詳しく話されていたことを知りました。いろんな裏話も知っておられて大笑いしたり、感慨にふけったりしました。

賛伊さんはどこにいてもご自分の生活のリズムを崩すことがなく、早寝早起き、食事前の散歩、しっかりご飯は食べて、間食・甘いものはとらない、また、ご自分の意見をはっきり言い、陰でモノをいうような方ではなく、いつも毅然としておられました。

そして、逝き方もまた潔く、胸が熱くなりました。

遺骨は遺言によって海に散骨したそうです。

昨年お別れしたときの彼女の表情を思い出します。

お別れするとき、いつもは「また来年ね！」とお互いに言うのに、賛伊さんは何も言わず私たちの顔をジッと、長い間見つめて、信じられないくらい強い力で私たちの手を握られました。

あれがお別れの挨拶だったんだ、彼女にとって私たちとの別れの挨拶は終わっていたのだと思うと胸が締め付けられます。

柳賛伊さん、ありがとう！あなたに出会えて嬉しかった、楽しかった！

安らかにお休みください。

